

全国後期高齢者医療広域連合協議会会長 要望行動全文

(H21.09.30 (水) 11:00 ~ 11:15 厚生労働省10階 副大臣室)

(横尾俊彦・会長)

今日はお時間をいただき、誠にありがとうございます。本日は全国の後期高齢者医療広域連合協議会を代表して要望に参りました。よろしくお願いいたします。

特に今回は、政権交代となり、(民主党) マニフェストにも掲げてありますように「将来、地域保険として一元化を図っていこう」ということですので、是非その道筋が明らかになり、実現できるまでは、現状の制度の基幹部分を是非維持していただき、現場に混乱がないように、何よりも医療を必要とされる後期高齢者の皆様に混乱や不安がないように取り計らいをお願いしたいと思います。

これまでの間、たくさんのお金も投入されていますし、市区町村の職員をはじめ多くの人たちが汗を流し、努力をしてくれていますから、これらのことも是非活かしていただくように御配慮をお願いしたいということで、ここにその趣旨で書かせていただいています。

今後は、移行に向けて政府としても取り組まれると思います。そのことについてはこちらの要望書に書いておりますように、制度設計に向けて詳細な工程を作ってくださいことですか、安心・信頼を高められるような、そしてまた必要な財源につきましては国によって法律で変えられる訳ですので、是非、予算についても国において確保いただきたいというのが一点目です。二点目は、我々現場を担っている広域連合や直接の保険者でもあります市区町村の意見等を是非酌んできながら、議論をしていただきたいということです。三点目は、制度説明も必要でございますので、是非混乱がないように御配慮いただきたいということです。そして四点目は、財政面ではありますが、財政面につきましては、今現在、県単位という形でおおよそ方向性が出来てきていますから、今後そういった議論も当然出てくると思いますから、国や都道府県の立場というものも明確にさせていただいて、全体が円滑に回るようお願いをしたいと思います。五点目に書いていますのは、少し具体的なことですが、実際の業務は電算システムで全体運営をして回していきますが、その電算システムの構築において、特に十分な検証や準備をしていただき、色々細かいトラブルでもその対応に相当の時間を要しますので、そうならないような運用のシステム開発についても万全を期していただきたいということです。

おおよそそういったことをまとめて、今日はお願いに来たところです。どうぞよろしくお願いいたします。

(長浜博行・副大臣)

全国後期高齢者医療広域連合協議会の横尾会長におかれましては、大変この問題でご尽力いただいているということをご各方面から伺っております。なかなかこういった会長職をお引き受けになられて、全国のご要望を聴きながら、今回も「要望書」という形で御提出をいただいておりますが、払われている大変なご努力に対して、心から敬意を表するものでございます。

今ご説明がありましたように、また民主党のマニフェストに関しても言及いただきましたように、日本の国民のすべての皆様にとっては、医療の問題というのは大変

大きな問題です。しかも、人間というのは、楽しいかな、またある意味では、中には悲しいかなともおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、年々歳を取っていくものであります。そういう状況の中で、国民が等しく、安心して医療を受けられることは重要です。誰でも好んでご病気をされる方はいない訳でございますから、そういう状況の中で、より国民の皆さんにとって適切な医療保険制度を常に考えるということとはとても大事だと思います。

横尾会長のご指摘にもありましたように、広域連合ということもありまして、都道府県それから市区町村、こういった地域の声を聞いて制度を作るということは、もちろん十分配慮をしなければいけないということだというふうにも思っております。

高齢化社会を迎える中において、その最先端の現場におられる方が首長さんだというふうに思っておりますので、今後とも様々なお話し合いをする機会を設けながら、より良い日本国の制度をめざしたいと思っております。しかし、現実を十分ご理解いただいているのは、むしろ地方分権の中において、市区町村の首長さん方々だということは、長妻大臣を始めとして、多くの関係者が理解をしているところでございますので、本日いただきましたこの要望書を大臣によく説明をして、制度改正の折には十分にお話し合いをさせていただければというふうに思っております。

ご指摘がありましたように、この制度については色々議論がありました。名称から始まりまして内容に至るまで議論がありました。また、ある意味では制度に書かれていることを、予算措置をしながらですね、現状に合わせるような形の中においてご理解いただいているという、こういう面もあります。

それを基本的に大きく変えていくという状況になれば、国会質疑だけではなく、ある程度の時間が必要になってくると思っておりますので、その過程の中においてもですね、今日はこういう形でお目にかかっておりますが、十分に、より頻繁に御意見を拝聴する機会を作っていきたいというふうにも考えておりますので、今後ともどうぞよろしくをお願いします。

今日はどうもありがとうございます。

(横尾会長)

今朝、こちらに来る時に改めて調べたのですが、後期高齢者の対象になっておられる後期高齢の皆様が、大体1300万人台で、1400万人を切るくらいですけども、大変多数おられますので、今おっしゃっていただいたような改善をしていただきながら、医療に向けての安心を高めていただきたいと思っております。

やはり、望んで病気になる人は誰もいませんし、健康は本当に豊かさとかゆとりを支える一番基本で大事なことだと思いますから、輝く高齢者になっていただきたい訳ですので、是非そういった意味で、我々も現場で感じて「このような改善ができれば良いのではないか」という声なども時々出しますので、それは是非、できるだけ集めていただき、大臣並びに副大臣も一緒に改善に向けて努力ができればなと思っておりますので、よろしくをお願いしたいと思います。

(長浜副大臣)

このあいだ発表されました年齢別の人口調査でもですね、私ども男性よりは女性の方の長寿率が大変進んでいるということもあります。また、これから生まれて来られる方への対応や、少子化対策も十分やらなければなりませんけれども、基本的には高齢者が増えていくという状況です。今おっしゃられたように1400万人が75歳以上かもしれませんが、まあ、あまり年齢で区切るということはいかがかとも思いますが、例えば65歳から75歳までの方々においても1000万人を超えるような状況がありますものですから、今おっしゃられた意味も含めてですね、歳を取るに従っての身体のご負担とか色々な体調面の変化なども出てくる面もありますから、

十分に検討させていただきたいと思います。

(横尾会長)

当然、今お話を聞きますと、現場の状況あるいは今後の見通しも分析をしながら、少し時間をじっくりかけて、制度改革に向けて取り組みをされるというふうに理解をさせていただいてよろしいですか。今のお言葉を受けて、各連合長さんにもお知らせをしていきたいと思います。

(長浜副大臣)

特にこういう医療の問題、まあ今日は年金の問題ではありませんけれども、医療とか年金、社会福祉、こういうことは、やはり、できればですね、もちろん国会質疑も非常に重要でありますけれども、むしろ地域に逆にお邪魔したりしながらですね、実情のご説明をいただいたり、地域の実情を理解しながら、かつそれを国の運営上に位置付けていこうという（ように思います）。まあ、大変失礼ながら、こういうふうに扱って良いのか分かりませんが、開明的な市区長さん、町長さん、村長さんもたくさんおられるわけですから、そういう方々のご意見を聞いていくことが、より良い、どっちが早道かではなく、むしろそういう地域のことを十分聞く方が国として良い制度ができてくるというケースも多々あるのではないかと思いますので、会長も、色々ご意見がありますからご苦勞も多いとは思いますが。

(横尾会長)

まさに今回、マニフェストにこの「廃止」のことがポンと出て、選挙結果が出ましたので、多くの連合長さんからも御意見がたくさん来ました。そして、改めてこういった要望をまとめるに際して御意見を全部聴き取ることに努めて、そして、全体が今後うまくいくようにということで、おおよそのとりまとめをしました。また、個々に色んなアイデアを含めた意見があれば、今おっしゃっていただいたように酌んでいただくと大変ありがたいと思います。皆、後期高齢者、特に国民の皆さんの医療のためにそれぞれ汗をかいている人ばかりですから、是非その努力が生きるようにご指導をお願いしたいというふうに思います。どうも今日はありがとうございました。

(了)